

成果の説明書

(氏名) 友岡邦之	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>A 研究の進展状況</p> <p>(1) 科学研究費助成事業関連</p> <p>基盤研究(B)「文化政策における政策評価の制度、方法、指標に人文地を応用して構築する研究」(研究代表者：小林真理)の初年度がスタートした。本年度はまず評価学の研究動向を把握するために、主に C.H.ワイス、P.H.ロッシをはじめとする先行研究の収集と分析を行った。また、文化政策における評価の問題に深く関わるアーツカウンシル関連の研修会に参加して現状のサーチを行うとともに、本研究テーマについて深い見識を持つ研究者が集まる文化経済学会の研究会に参加し、意見交換を行った。さらに、評価における定性的評価への応用可能性を検討するために、質的データ解析の手法について研究を行った。</p> <p>(2) 群馬県受託研究</p> <p>群馬県が文化庁の助成を受けて行う新しい試み(戦略的文化芸術創造事業)について、その効果を試行的に検証する取り組みを行った。この事業は富岡製糸場や前橋臨江閣などのユニークヴェニューを活用したり、群馬交響楽団をはじめとする県の文化的資源をジャンルの異なる芸術表現と掛け合わせることで、どの程度新しい鑑賞者を獲得したり、群馬県内の文化資源を認知したりしてもらえるかを試行・検証するものであった。来場者調査の結果、同事業が一定程度の効果を挙げたことを明らかにすることができた。</p> <p>(3) 前橋市受託研究</p> <p>平成 28 年度の受託研究『アーツ前橋の今後の運営に関する考察と提言』の継続調査を受託。今回は調査業務の窓口役を務めた。前回の調査・研究ではアーツ前橋の運営への指定管理者制度の導入可能性を検討したが、今回は、同制度を導入するとしたらその課程でどのような対応が必要かについて検討が行われた。</p> <p>B 授業以外での教育上の取り組み</p> <p>(1) 大学院地域政策研究科集中講義科目「地域活性化特論」への協力</p> <p>前橋市で文化施設の指定管理業務を受託している株式会社オリエンタル群馬の井階涉様、および前橋市議会議員の岡正己様に講義をお願いした。</p> <p>(2) 演習所属決定学生(2年次)への指導</p> <p>夏休みに課題図書についてレポートの執筆、後期期間中に社会学の基礎概念についてのレクチャー、および高崎市内でのイベント「zinphony」向けに zine を作成させ、出展させた。</p> <p>(3) 公開講座での講義担当</p> <p>地域科学研究所公開講座の 11 月 8 日(木)の回「アーツカウンシルが変えるアートと地域との関係」を担当した。</p> <p>(4) 本務校以外での教育業務</p> <p>a. 東京大学大学院人文社会系研究科講義課目「現代日本の文化政策」担当</p> <p>b. 東京藝術大学大学院学位論文等審査委員担当</p>	

C 地域・社会活動

(1) アーツカウンシル前橋

前橋市が設立した「アーツカウンシル前橋」の統括責任者に就任し、初年度の活動として前橋市の複数の文化事業について、試行的なリサーチ活動を行った。また市民会議を2回開催した。

(2) アーツ前橋運営評議会

アーツ前橋運営評議会の副議長として、同施設に対する提言を行った。

(3) 群馬県文化審議会

群馬県文化審議会の指針・基金部会座長として、県の文化行政の方向性に対し提言を行った。

(4) NPO 法人ジョウモウ大学

群馬県内で活動する NPO 法人「ジョウモウ大学」のスタッフの一人として、事業の運営に関与した。

2 その他の事項

(1) 文化経済学会〈日本〉個人理事・学会誌編集長

(2) 日本文化政策学会個人理事・学会誌編集委員

3 次年度以降の計画・抱負

学部長として大学組織の運営に貢献する。

研究面では、引き続き文化政策における評価制度の問題を中心的なテーマとして業務を遂行する。